

カメルーン歴4か月



まなさん通信



2026.05.21
vol.3

ゴールデンウィークも明け、日本はぽかぽかの春…を通り越して暑くなってきた頃でしょうか！カメルーンでは雨が降る日が増えつつあり、雨季の始まりを感じています。が、雨が降ると私の部屋に思わぬ異変が…？さて、今月もまなさん通信は～じま～るよ～

雨が降るとどこからか現れる水たまり(部屋の中ですよ、もちろん)。あら、こんなところにも隙間が！と新たな発見だらけの日々ですが、ベランダの扉にも隙間があり、そこから入ってくる水はベランダに溜まった赤土混じりの茶色い水。お掃除頻繁にしろよってことですね、きっと。それに加えて雨が降ると増えるのが停電。カメルーンに来て1番役に立っているものは間違いなくライト付き、ソーラー充電可能なモバ充電です。字面だと不便なことも多いように思えますが、そんなネタだらけの毎日がおもしろいまなさんです。



今日の主食はなんだろうな～

日本に比べて圧倒的に主食の種類が豊富なカメルーン。米、バナナ(甘くない)、とうもろこし(粉)、パン、パスタ…そしてマニョック(キャッサバ)、マカボ、ヤムイモ、ジャガイモ、サツマイモなどのこれまた種類が豊富なイモ類がある上に調理方法も焼き、揚げ、そのまま蒸す、練って蒸す、発酵させて蒸すなど様々。カメルーン人に作ってもらえるごはんは毎回主食ガチャです！



祝日 = 行進Day！？

5月1日は「メーデー」メーデーといえば社会の授業中に聞いたことあるな～くらいのワードでしたが、カメルーンでは祝日でしっかりお祝いします！3月の国際女性デーといい、祝日は国際基準のもの(+宗教行事)が多いですね。そんな祝日、私の学校では毎回fête※が開催され、みなでお揃いの服(or 布)を着てテーマについて話し、ご飯を食べて、歌って、踊って…とお祝いします。が、カメルーン全体としてはそれぞれの地域で行進をしてお祝いの気持ちを表現するところが多いみたい。下の写真は別の地域にいる同期が撮影してくれたもの！メーデーは「働く人たちがより良い仕事の環境を求めて声をあげる日」ということで地域の働く大人たちがそれぞれの職業や会社を表す格好やモノを持って行進します。さて、ここでクイズ！これらはそれぞれ何の職業の団体でしょう？答えは2ページ目に！ちなみに…私の学校ではこんな感じでした→



※fête(フェット)：お祝いのための集まり

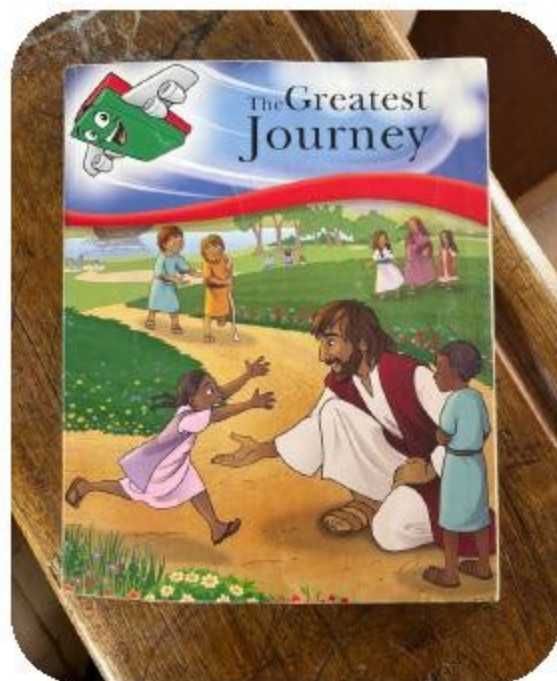
まなさん 今こんな感じ～



今月はブロンド&半分コーンローに挑戦！真ん中の写真は仕立て屋さんのマダムと♪毎回試着後に裾の長さ調整をその場でやってもらうのですがハサミ捌きが見事なんですっ

～カメルーンで迎えた誕生日～

日本では祝日の誕生日もカメルーンでは平日！学校があり、子どもたちにお祝いしてもらいました。朝からHappy Birthdayを英語とフランス語で歌ってもらいハッピーに始まった1日。休み時間にはケーキのサプライズが…！でもこれはこの国では簡単なことじゃなくて。学校には購買があり100フラン(約25円)のサンドイッチや揚げパンがみんなのお昼ご飯。そんな子達が100フランを出し合ってわざわざ用意してくれたその気持ちが嬉しくて…2年間の限られた時間の中で子どもたちの世界がより広がる活動をしたいなと改めて思いました。ちなみにこの「溢れ出る全力お祝いムード」はカメルーン人の文化でもあるようで…帰り道、よく行く青空市場のマダムに今日お誕生日なんだ～と言ってみたらまさかのパイナップルをおまけにつけてくれました！(大きすぎてもはやこれがメイン！)基本的に値段交渉のカメルーン、ぼったくりやスリに要注意ですが、こんな太っ腹な一面もあるのがなんだかほっこりして面白くてかわいくて。また少しカメルーン人への理解が深まり、幸せな1日になりました！(写真の左はマンゴー、手前はアボカドです。雨季の始まりの今は絶賛マンゴーの収穫時期！この量が300円弱で手に入ります！嬉しい！)



洗濯はアイロン命！！

日本でアイロンがけといえば、シワを伸ばす身だしなみのひと手間。だけどアフリカではまさに「命を守る」大切なプロセスなんです。というのも、洗濯物を外干しするとハエがやってきて服に卵を産みつけちゃうんだとか。そのまま服を着ると皮膚病を引き起こす可能性があるらしく…それを防ぐためにもアイロンの熱で殺菌が必須！！とこれは一般教養(生活科)の授業で習う、衛生教育のひとつです。歴史的にも様々な疫病があるアフリカだからこそ、この他にも知識として習うレベルが小学生でもとっても高いなと感じます。これもカメルーン人の「当たり前」ですね！



カメルーン人は こうしてつくられる



「日本人らしさ」って知識として学んだわけでもないのにいつの間にか身について、外に出ると「ああ、やっぱり自分は日本人だ…」って感じる場面に出会うもの。異国の教育現場にいと、違いを感じられる外の人間だからこそ「その国らしさ」や「そこでの当たり前」が形成される様子をまざまざと観察できておもしろいのですが…先日英語のクラスでは比較級と最上級の例文で出てきた“*She is the most beautiful girl in this class.*”の一文を先生がこれは文法を説明するための文章なのであって『神は全ての人を美しく作ったのだから、美しさは比べられるものではない。全ての人間は美しく、美しくないとは形容するものはその人自身ではなく、行動である。』と熱弁。そうして一通り話し終えると「はい、次の問題」と一瞬で時が戻り授業が再開され、こんなふうによりと宗教トークが挟まれる環境に、そりゃ宗教が生活の一部として存在するわけだよな～と納得してしまいました。こうして日々「カメルーンがカメルーンたる所以」のようなものに触れられるのが楽しくて仕方ない今日この頃です。

質問募集してます！

こんなこと聞きたい！
この写真の説明が欲しい！
などありましたら、ぜひ
こちらに入れてください～



～1ページ行進クイズの回答～

左上：お医者さん、右上：バイクタクシー会社
左下：パン屋さん、右下：カカオ農家さん
(手に持っているのがカカオ！)でした～